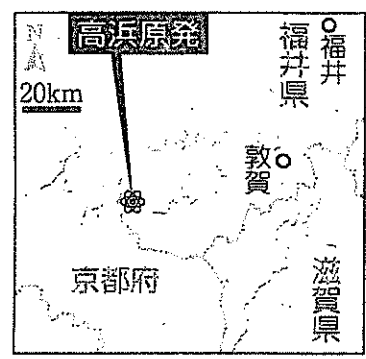


# 高浜町長が再稼働同意

## 40年超原発1、2号機

運転開始から四十年を超えた関西電力高浜原発1、2号機（高浜町）を巡り、同町の野瀬豊町長は一日、再稼働に同意した。町役場で上尾徳郎議長に伝え、「原子力発電所は町の経済や行政運営に資する。原発なしに二〇五〇年のカーボンニュートラルは実現できない」と再稼働の必要性を語った。四十年超運転の認可を受けた全国四基の原発で、立地自治体の再稼働同意は初めて。＝関連⑩面

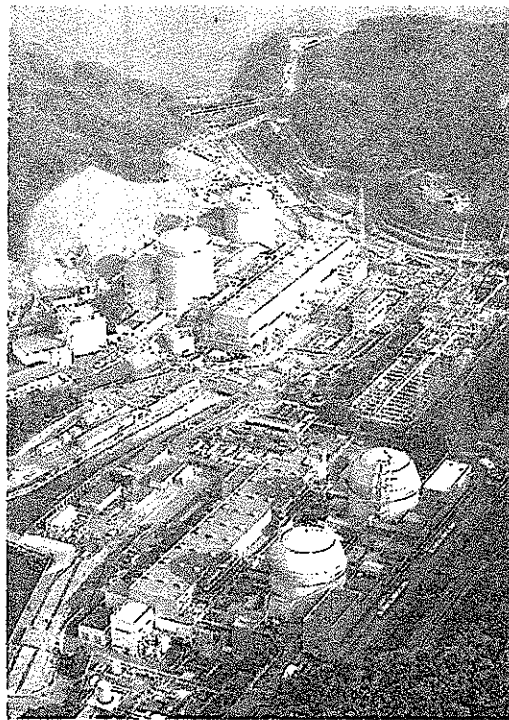
再稼働には県や県議会の同意も必要となる。しかし、杉本達治知事が判断の前提として関電に求めている使用済み核燃料中間貯蔵施設の県外候補地が提示されていないため、運転再開の見通しは立っていない。野瀬町長は会見で「再稼働に対する住民の気持ち、



議会の意味、国や関電への要請に対する回答が確認で

きた」と判断の経緯を説いた。老朽化による経年劣化の不安については「原子力規制委員会のオーダーにそった対策で工学的な安全性は担保されている」と述べた。

高浜1、2号機の再稼働には町議会が昨年十一月に同意。これを受け野瀬町長は、四十年超の運転に対する国民理解の促進、原発の



関西電力高浜原発（手前から）4号機と3号機、（奥左から）2号機と1号機＝高浜町で、本社へ「まなづる」から

将来像の明確化などを国に要請し、同意の判断材料にするとしてきた。一月二十九日、梶山弘志経済産業相とのオンライン面談で「原子力政策に対する政府の考えが確認できた」として再稼働同意に前向きな姿勢を示していた。

原発の運転は東京電力福島第一原発の事故後、原子炉等規制法で原則四十年と定められたが、規制委が認めれば最長二十年延長できる。県内では高浜1、2号機のほかに美浜原発3号機も認可を受けている。

### 関電信頼回復に全力

野瀬町長の同意を受け、関電は「運転開始から四十年を超える原子力発電所の運転の必要性や安全性などについて、立地地域や社会の皆さまにご理解いただけるよう努める。全社一丸となって業務改善計画を着実に実施し、信頼回復に全力を尽くす」とのコメントを出した。